

# 美浜の会ニュース

No. 150

2017. 12. 6

美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会 (代表) 小山 英之  
大阪市北区西天満4-3-3 星光ビル3階 TEL 06-6367-6580 FAX 6367-6581 郵便振替: 00950-6-308171 (美浜の会)  
⇒ ホームページURL <http://www.jca.apc.org/mihama> ⇐

頒 価 300円  
購読料 年2千円

神戸製鋼の検査データ改ざん 疑いは晴れていない！ 再稼働はもっての外

## 住民説明会の開催・やり直しを求めよう！

関電の被ばく評価：2011年4月末の空間線量率を事故後「最大」とウソを垂れ流し  
参加者を制限するな/ 避難計画は机上の空論/ 住民の声を聞け

## 12/16 再稼働反対！ 関西・福井の交流集会に集まろう

神戸製鋼データ改ざん問題で、大飯原発の再稼働は2か月延期となった。30km圏内戸別訪問等で明らかになった再稼働に反対する住民の声に依拠して、2か月延期から再稼働阻止に進もう。

### ◆神戸製鋼検査データ改ざん問題・「改ざんなし」が証明されない限り再稼働はあり得ない◆

関西電力は11月30日、神戸製鋼の検査データ改ざん問題の調査に時間がかかっているとして、大飯原発3・4号の再稼働を2か月延期すると発表した(3号は来年2月上旬に燃料装荷・3月中旬に原子炉起動、4号は4月上旬に燃料装荷・5月中旬に原子炉起動予定)。福井県知事が県民と関西の自治体・住民の声を無視して再稼働に同意を表明したわずか3日後だ。関電は、先に同意を取り付けた上で、延期を発表した。

神戸製鋼とその子会社による検査データ改ざんは、原発・自動車・新幹線・航空機等々の広範な業種と海外にまで波及し、大きな問題となっている。その手口は、必要な強度に満たない場合にはデータを改ざんし、複数回の検査が必要な場合には1回の検査で済ませる等だ。原発関連では、六ヶ所村のウラン濃縮工場と福島第二原発で検査データが改ざんされた製品が納入されていることが明らかになっている。

関電は11月9日に規制庁から問われて初めて、大飯3・4号と高浜3・4号の重要機器に神戸製鋼製品が使用されていることを認めた。原子炉や一次系配管、燃料棒の他に、大飯3・4号格納容器のコンクリート内に埋め込まれているテンドン(ピアノ線のような引っ張りに強い鋼線。これを入れて格納容器全体を締め付ける。玄海3・4号も同様)でも神戸製鋼製が使われている。関電は11月22日の規制庁との面談で「検査プロセスは自動化」「複数人で確認」等を理由に、

12月25日(月) 国相手の大飯原発3・4号止めよう裁判 15:00～ 大阪地裁 202 大法廷  
14:45 傍聴券の抽選(別館南側玄関前) / 法廷終了後に報告・交流会: 弁護士会館 1205 号室

### 目次

- ▼12/16 集会に集まろう・・・p1
- ▼若狭町民アンケート結果・・・p4
- ▼朽木住民説明会報告・・・p5
- ▼綾部市上林地区の個別訪問報告・・・p6
- ▼関電の被ばく過小評価の批判・・・p8
- ▼中間貯蔵施設に反対しよう・・・p11
- ▼東海第二原発の寿命延長許さない・・・p14
- ▼大飯原発3・4号機運転差止裁判報告・・・p16

問題はないとしている。しかし、神戸製鋼自身が、役員を含む「会社ぐるみ」で検査データを改ざんしていたことを認めているのだから、「複数人で確認」しても、問題なしの理由にはならない。これら関電の言い分は、1999年英国BNFL社のMOX燃料ペレットの検査データ改ざんの時と同じだ。関電は改ざんを知っていながら「製造部門と検査部門が独立」等として不正を認めなかった。当時私たち市民の力で改ざんを暴き、MOX燃料使用差止裁判の決定が出る前日に、やっと改ざんを認めた事実を忘れてはならない。さらに関電は、神戸製鋼問題でも、原発の運転「実績」から安全上問題ないと「結果オーライ」の主張だ。福島原発事故を経てもなお、安全性軽視は甚だしい。ただでさえ危険な原発で、検査データが改ざんされた製品が使われるなどあってはならない。検査データ改ざんの疑いが晴れない限り、再稼働はありえない。

規制庁は文書での指示も出さず、電力各社の「自主調査」に任せ、非公開の「面談」で聞き取りをしているだけ。検査データ改ざんは約40年前から行われているのだから、稼働中の原発を止めて、全ての原発で外部調査を含めた徹底した調査を行い、公開で審査すべきだ。

### ◆住民説明会の開催・やり直しを求めよう

大飯3・4号の再稼働に関する住民説明会は、7月におおい町で、10月に京都北部30km圏内の綾部市・南丹市・京丹波町で、11月23日に滋賀県高島市で行われた(5頁)。ほとんどの説明会は出席者を区長等に限ったものだった。福井県内では、5km圏内に入る小浜市でも、30km圏内の高浜町・若狭町・美浜町でも開かれていない。舞鶴市長は「高浜の時と同じなので開く必要はない」とまで述べている。

再稼働のための形式的な説明会ではなく、事故が起これば被害を受ける住民の意見を聞き、それを尊重して同意の有無の判断がなされるべきだ。以下の理由から、住民説明会の開催・やり直しを求めよう。自治体に申入れを行ってほしい。

#### ① 説明会が開かれてない自治体がある/ 出席者が区長等に限られている

若狭町の「安全なふる里を大切に作る会」が11月に実施した住民アンケートでは、約65%(101人)が説明会は「必要」と答えている(4頁)。当然に説明会を開くべきだ。

#### ② 神戸製鋼の検査データ改ざんについて、自治体や住民への説明がない

関電は11月30日に、再稼働の2か月延期と神戸製鋼問題を福井県に報告し、調査中にも関わらず「不適切行為のあった製品はない」と伝えた。30km圏内の京都府や滋賀県、各市町や住民には何の説明もない。

#### ③ 関電の被ばく評価は詐欺まがい

##### 2011年4月末の空間線量率を事故後「最大」とウソを垂れ流し

10月以降の住民説明会や京都府5市町協議会(10/19)、滋賀県原子力安全対策連絡協議会(11/28)で、関電は事故時の5km以遠の被ばく量は、わずか $0.03\mu\text{Sv/h}$ として、「一時移転は不要」「屋内退避で十分」と説明している。平常時より低い線量率ということになる。

その根拠として、福島原発事故時の周辺の「最大空間線量率( $91\mu\text{Sv/h}$ )」をあげている。関電資料ではこの数値の注釈として「文科省及び米国DOEによる航空機モニタリングの結果より」と書いている。元資料にあると、この「 $91\mu\text{Sv/h}$ 」は、2011年4月6～29日にモニタリングを実施し、「4月29日現在の値に換算したもの」となっている。事故から一か月以上後の値をもって「最大」としている。実際には、福島県のモニタリングポストでは事故後 $1,500\mu\text{Sv/h}$ を超えているものもある。福島原発事故を意図的に小さく見せ、大飯原発の再稼働を

狙う関電の卑劣なやり方は、到底許されるものではない。住民説明会で撤回し謝罪すべきだ。さらに、放射能放出割合を福島原発事故の千分の1以下（放出量で3千分の1以下）と過小評価している（8頁）。この過小評価のからくりも関電は説明すべきだ。

#### ④ 自然災害が重なれば、避難道路は使えない

内閣府は「大飯地域の緊急時対応」（10月25日）で避難経路を示している。しかし、10月の台風で避難道路が通行不能となり、のり面の補強工事が続いている地区もあった。

さらに、今回初めて避難道路に指定された片道1車線の府道1号線は、土砂災害の危険区域も多く狭い道で渋滞が予想される。しかし、バイパス工事の対象はわずか1.9km区間で、避難道路の拡張という目的ではない。5km圏内のおおい町大島地区（約740名）と綾部市奥上林・中上林地区（約1500名）の避難道路になっているが、とても避難はできない（6頁）。その他の地域でも、台風や雪で避難は無理だと話す多くの住民のリアルな声を聞くべきだ。

#### ⑤ 再稼働と引き換えに、来年（2018年）中に候補地を選定すると関電が発表した「中間貯蔵施設」の説明がなされていない

福井県知事は、県外での「中間貯蔵施設」立地を大飯原発の再稼働と併せて関電に強く求めた。関電は2018年中に候補地を決めて公表すると答えた。他方、福井県知事が同意を表明した11月27日、避難計画を案ずる関西連絡会等の京都府申入れで、府は2015年に続いて「一貫して反対は変わらない」と表明した。「中間貯蔵施設」は原発延命のための、永久の核のゴミ捨て場になる。どこであろうと立地に反対しよう。関電も国も「何年間貯蔵するのか？」「中間の後、どこに搬出するのか？」、何も説明していない。この問いに答えさせ「中間貯蔵施設」の本質を明らかにしていこう（11頁）。

### ◆12/16 再稼働反対！関西と福井の交流集会に集まろう

夏以降、大飯原発の再稼働反対表明を求めて、避難元・避難先の自治体に申入れが行われてきた。避難計画を案ずる関西連絡会は、カラーリーフを作成し、再稼働反対を広く訴えている。高島市・綾部市の30km圏内を戸別訪問し、リーフを配布しながら住民の声を聞いてきた。福島原発事故の責任もとらない国が再稼働するなどもっての外だと怒りをぶつける人、高齢者が多く限界集落に近い地区では避難できない、国道等の避難道路に出るまでの道は狭く、雪や土砂災害等で孤立したこともある等々。障がい者や福祉施設の避難手段も決まっていない。自然災害と原発事故が重なり孤立すれば、安定ヨウ素剤も届かない等々、多くの住民が不安を抱えている。

再稼働推進のために切り捨てられているこれら草の根の声にしっかりと根を下ろし、それを基盤にして一層運動を強めていこう。住民説明会の開催・やり直しを求めて申入れを進めよう。

12月16日には、大飯3・4号の再稼働に反対して、関西と福井の交流集会が開かれる。地元おおい町と福島原発事故の避難者からの訴えを受け、被ばくの過小評価の紹介、若狭町での住民アンケート等の活動、京都・滋賀での取り組み、中間貯蔵反対の活動等々を交流する。各地の活動に学び、連携して、これからの活動を一層力強いものにして、大飯原発の再稼働を止めよう。

**福井と関西が危ない 大飯原発3・4号の再稼働を止めよう！ 12/16 関西・福井の交流集会**

日時：12月16日（土）13:30～16:30 場所：大津市ふれあいプラザ 大会議室

ゲスト：地元おおいからの訴え（宮崎宗真さん）/福島原発事故の避難者の訴え（菅野みずえさん）

主催：避難計画を案ずる関西連絡会 チラシ <http://www.jca.apc.org/mihama/annai/flyer171216.pdf>